

【栃木県の概要】

1 水稲

(1) 栃木県における令和2年産水稲の作付面積（子実用）は5万9,200haで、前年産並みとなった。

また、主食用作付面積は5万4,900haとなった。

(2) 全もみ数（穂数×1穂あたりもみ数）は、穂数が平年並み、1穂あたりもみ数がやや多いとなったことから「やや多い」となり、登熟は、8月上旬以降の高温・多照の影響により「平年並み」となった。

(3) この結果、栃木県の10aあたり収量は538kgで、前年産に比べ12kg増加した。

また、作柄表示地帯別では、北部で556kg（前年産に比べ5kg増加）、中部で533kg（同8kg増加）、南部で514kg（同26kg増加）となった。

なお、農家等が使用しているふるい目幅（1.85mm）で選別された栃木県の作況指数は101となり、作柄表示地帯別では、南部で104、中部で101、北部で100となった。

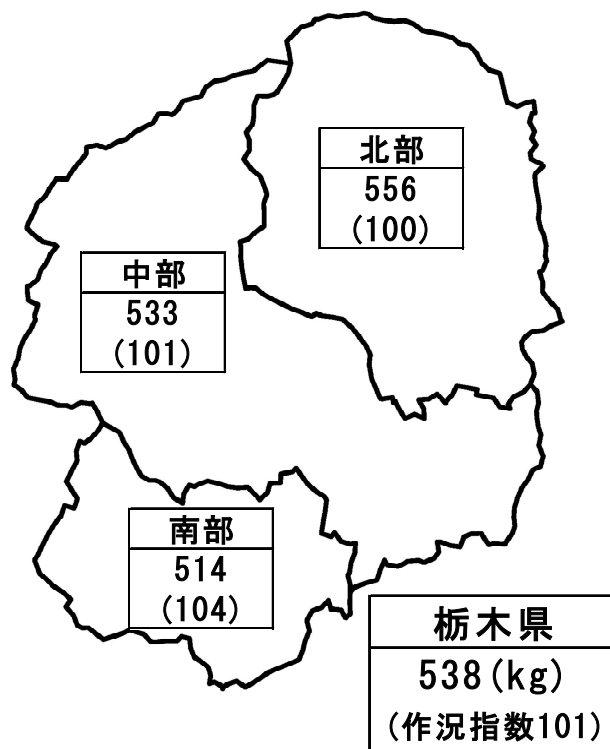
(4) 以上のことから、収穫量（子実用）は31万8,500tで、前年産に比べ7,100t増加した。

また、主食用作付面積に10aあたり収量を乗じた収穫量（主食用）は29万5,400tで、前年産に比べ6,600t増加した。

2 陸稲

令和2年産陸稲の作付面積（子実用）は165haで、前年産に比べ14ha減少し、収穫量（子実用）は348tで、前年産に比べ30t減少した。

図 水稲の作柄表示地帯別
10aあたり収量及び作況指数

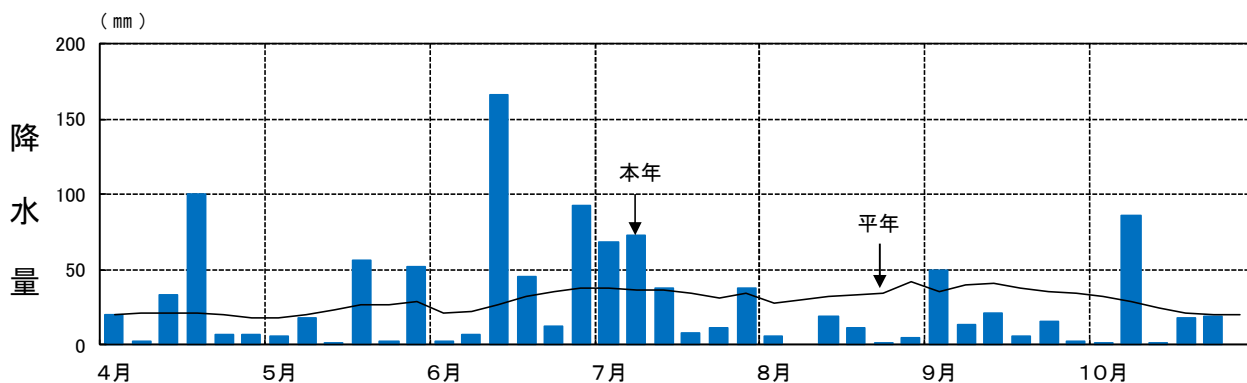
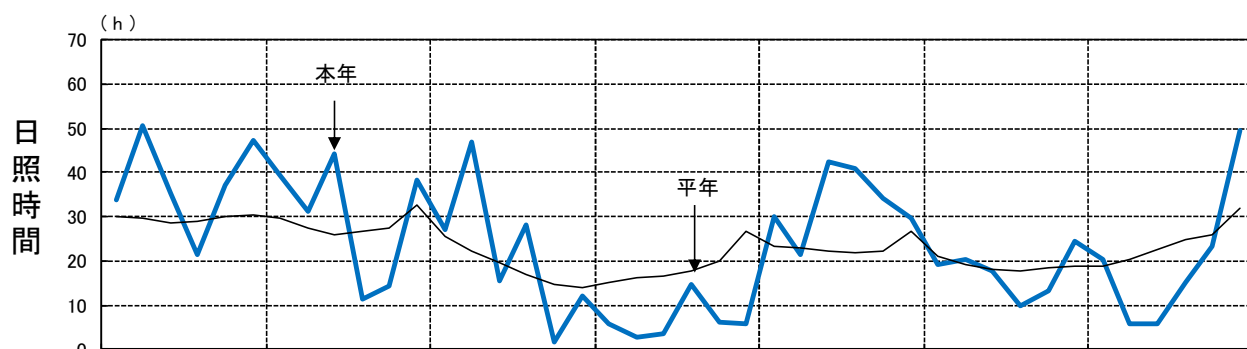
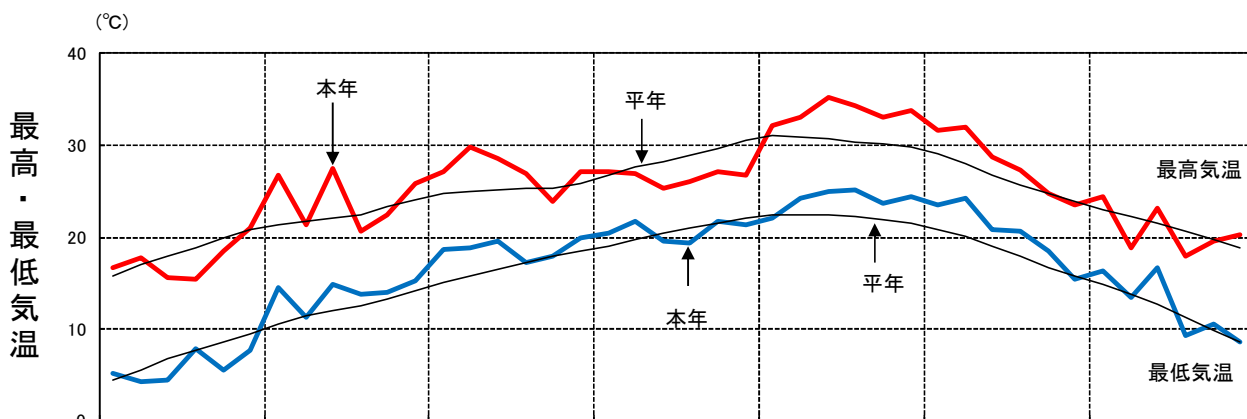


○ この資料は、「令和2年産水陸稲の収穫量（関東農政局管内）」12月9日公表の補足資料として作成したものです。

詳細については同公表資料を御覧ください。

本資料は、関東農政局ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/ 】

令和2年 半旬別気象（宇都宮）



資料：気象庁



注：田植期、出穂期及び刈取期の期日は、いずれも最盛期を示す。
 なお、()内は、平年との遅速(日数)を示す。

お問合せ先

◎本統計調査結果について
 関東農政局 栃木県拠点 統計チーム
 電話：028-633-3106
 F A X：028-633-9271